



イ14
A-800
5

極秘

第一種

本誌 権第100號ノ一〇

明治三十一年七月二日香港發

陸軍少兵少佐明石元二郎第三十一報告



- 一 馬尼刺ニ於テハ總督ハ益、北守ノ決心ヲ堅固ニシタルナラン
是レ西艦隊來援ノ事、信ニ近キカ故ナリ
- 二 叛徒ノ勢ハ存外劇烈ナラス是レ武器ノ不足ニ歸因スルト
云フノ説、信ニ近カラシ
- 三 西人中ニハ叛徒間ニ内訌アルヲ傳フル人アリ今ハ強チ信ス
可ラサルモ叛徒間ニハ後來生シ得ヘキナラン
- 四 米叛兩軍ノ間ハ多少隔意アルハ信ニ近シ
- 五 西軍ハ馬尼刺ヲ固守シ尚ホ此後一ヶ月半位ノ糧食支ヘ
得ン



六、西國艦隊カ「ホルトサイド」ニ着シタリ（廿七頃）トノ
電報（香港新聞）ハ「テヘロー」中將カ下官ニ告ケタル
來月十五日ノ頃西艦到着スヘシ云々ト略符合ス
七、米兵カ「リンガエン」ニ上陸セリトノ「ハ」下官 尚ホ疑ヲ存シ
置ク

八、英米叛ノ秘密會議所ハ新嘉坡ニアリトノ説アリ
九、叛軍ハ馬尼刺市中ニ在ルモ其舊城ヲ屠ルハ容易ナラサ
ルヘシ 下官ハ思フ叛軍今日マテノ手降ニテハ此城郭ハ
容易ニ其手中ノモノニ非ララスト

十、叛徒カ日本ニ對スルノ情ハ此戦争來多少失望シタル
ナランカト 下官ハ考フ勿論今トテモ其感情ハ悪シキ方ニ
アラサルヘケレド、特ニ「ハ」ナラスト思惟スル位ノ「ハ」免レサ
ランカ

十一、武器々々ト熱心ニ呼籲セシ叛徒カ数千挺ノ小銃ヲ得テ
其割合ニ動作ノ緩慢ナルハ 下官ハ彼ヲ憐ムノ情ヨリシテ
其熱心ノ鐵ノ如クナラサン歎ノ批難ヲ加ヘントス

十二、今日マテノ如キ情況ニテ過サハ叛徒カ折角高メタル氣
焰ノ消散セン「ハ」慨歎ス兔ニ角彼ハ戰ヲ知ラサンナリ
十三、西人ハ吞氣ニハ見エレド多少踏ミ耐ヘノアル人種ニカ如シ
支離滅裂ノ軍隊「セブ」ニ「ラロンガポー」ニ「カロンピー」附
近ニ在テ中々降参セス勿論賊ニ降参スレハ銃殺ヲ免レ
サルカ故ニモアルヘシ此點少レク「メッツ」ノ「バセーヌ」將軍
ト異ル

長キ間浮キ足トナリ容易ニ轉ハサル奇ナリ
十四、屢報告セシ如ク彼ハ攻勢的ノ戰術ヲ知ラサルカ如シト
云フに過言ナラサンヘシ

十五

菲理賓問題ノ引張り所ハ日本ナラン西新聞ハ嘗テ其
自己ノ側ニ立ツキヲ述ヘタルアリシカ今香港ニテ聞
ク所ニ扱ハル人ハ其自黨ノ中ニ算スルカ如シ
兎ニ角結局ノ納リニハ孰レニシテモ列國ハ口ヲ出スヘシ此際
ニ日本モ何か言フナラントハ少クモ馬尼刺香港ニテハ多
クノ人ノ信スル所ナラン汝ノ關係ナキ喧嘩ニ差出口ハ無
用ナリト他人ヲレテ其鐵面皮ヲ罵ラシムル底ニハ日本ノ
價值ハ慥カニ下落シ居ラス

十六

菲理賓ヲ日本カ急ニ同化セントノ考ハ或ハ劣シテ得ル所
少キニ非ザルヘキ歟彼ハ野蠻ヨリ直ニ歐化ニ薰陶セラレ
發育セリ日本ハ東洋文明ノ久シク中心トナリ漸ク歐洲
ノ文明ニ推移シツアリ東洋文明ノ味ハ菲理賓人ノ
知ラザル所ナリ而シテ日本ハ彼等ノ理解スル能ハザル東洋

的ノ文明ニ富シ彼レカ少シク理解シ得ん西洋流ニ於

テハ日本ハ或ル點ニ於テ存外彼等ノ眼ニハ薄シトスル所
アルカモ知ラス (終)

